

果樹類一殺菌剤

※農薬の使用に際しては、必ず農薬のラベルに記載されている登録内容を確認してください。
更新年月日:2023/11/10

	農薬の名称	群馬県指定	製剤毒性	有効成分の種類	作用機構分類	病害虫雑草名	
						サビダニ類	ハダニ類
1	石灰硫黄合剤		普	石灰硫黄合剤	I:UN F:M2	○	○

果樹類一殺虫剤

※農薬の使用に際しては、必ず農薬のラベルに記載されている登録内容を確認してください。
更新年月日:2023/11/10

	農薬の名称	群馬県指定	製剤毒性	有効成分の種類	作用機構分類	病害虫雑草名					
						ハダニ類	ハマキムシ類	ケムシ類	カミキリムシ類	モモシクイガ	コスカシバ
1	ゼンターリ顆粒水和剤	抑制	-	BT	11A	-	○	-	-	-	-
2	チューンアップ顆粒水和剤	抑制	-	BT	11A	-	○	-	-	-	-
3	デルフィン顆粒水和剤	抑制	-	BT	11A	-	○	○	-	-	-
4	バイオセーフ		-	スタイナーネマカーポカプサエ		-	-	-	-	○	○
5	バイオリサ・カミキリ		-	ポーベリア ブロニアティ		-	-	-	○	-	-

果樹類(かんきつ、りんご、なし、びわ、もも、すもも、うめ、おうとう、ぶどう、かき、マンゴーを除く)一殺虫剤

※農薬の使用に際しては、必ず農薬のラベルに記載されている登録内容を確認してください。
更新年月日:2023/11/10

	農薬の名称	群馬県指定	製剤毒性	有効成分の種類	作用機構分類	病害虫雑草名
						ムカシキリ類
1	ロビンフッド		普	フェンプロパトリン	3A	○

果樹類(かんきつを除く)一殺虫剤

※農薬の使用に際しては、必ず農薬のラベルに記載されている登録内容を確認してください。
更新年月日:2023/11/10

	農薬の名称	群馬県指定	製剤毒性	有効成分の種類	作用機構分類	病害虫雑草名		
						ハダニ類	シブラム	うどんこ
1	エコピタ液剤		普	還元澱粉糖化物		○	○	○
2	粘着くん水和剤		普	デンプン		○	○	-

果樹類(なしを除く)一殺虫剤

※農薬の使用に際しては、必ず農薬のラベルに記載されている登録内容を確認してください。
更新年月日:2023/11/10

	農薬の名称	群馬県指定	製剤毒性	有効成分の種類	作用機構分類	病害虫雑草名
						ムアシブ類
1	オレート液剤		普	オレイン酸ナトリウム		○

果樹類(りんご、おうとうを除く)一殺虫剤

※農薬の使用に際しては、必ず農薬のラベルに記載されている登録内容を確認してください。
更新年月日:2023/11/10

	農薬の名称	群馬県指定	製剤毒性	有効成分の種類	作用機構分類	病害虫雑草名
						ハダニ類
1	アカリタッチ乳剤		普	プロピレングリコールモノ脂肪酸エステル		○

果樹類－落葉果樹－殺菌剤

※農薬の使用に際しては、必ず農薬のラベルに記載されている登録内容を確認してください。
更新年月日:2023/11/10

	農薬の名称	群馬県指定	製剤毒性	有効成分の種類	作用機構分類	病害虫雑草名			
						カイガラムシ類	ハダニ類	越冬病害虫	縮葉病
1	石灰硫黄合剤		普	石灰硫黄合剤	I:UN F:M2	○	○	○	○

果樹類－落葉果樹－殺虫剤

※農薬の使用に際しては、必ず農薬のラベルに記載されている登録内容を確認してください。
更新年月日:2023/11/10

	農薬の名称	群馬県指定	製剤毒性	有効成分の種類	作用機構分類	病害虫雑草名
						カイガラムシ類
1	機械油乳剤95		普	マシン油		○

果樹類－落葉果樹(なし、りんご、かき、もも)－殺虫剤

※農薬の使用に際しては、必ず農薬のラベルに記載されている登録内容を確認してください。
更新年月日:2023/11/10

	農薬の名称	群馬県指定	製剤毒性	有効成分の種類	作用機構分類	病害虫雑草名		
						カイガラムシ	サビダニ	ハダニ類 越冬及び卵
1	機械油乳剤95		普	マシン油		○	○	○

果樹類-仁果類-りんご-殺菌剤

※農薬の使用に際しては、必ず農薬のラベルに記載されている登録内容を確認してください。
更新年月日:2023/11/10

農薬の名称	群馬県指定	製剤毒性	有効成分の種類	作用機分類	病害虫雑草名-使用目的																		
					輪紋病	斑点落葉病	モニリア病	褐斑病	炭疽病	うどんこ病	すす点病	すす斑病	黒星病	黒点病	赤星病	灰色かび病	腐らん病	モニリア病(実腐れ)	白紋羽病	根頭がんしゅ病	赤衣病	紫紋羽病	摘花
1 ICボルドー412		普	銅	M1	○	○	○	○	○	-	-	-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
2 アフェットフロアブル		普	ペンチオピラド	7	-	○	○	○	-	○	○	○	○	○	○	-	-	-	-	-	-	-	-
3 アリエッティC水和剤		普	1. キャプタン 2. ホセチル	M4、P7	○	○	-	○	○	-	○	○	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
4 アントラコール顆粒水和剤		普	プロピネブ	M3	○	○	-	○	○	-	○	○	○	○	○	-	-	-	-	-	-	-	-
5 オーソサイド水和剤80		普	キャプタン	M4	○	○	-	○	○	-	○	○	○	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-
6 オキシラン水和剤		普	1. キャプタン 2. 有機銅	M4、M1	○	○	-	○	○	-	○	○	○	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-
7 オキシドー水和剤80		普	有機銅	M1	○	○	-	○	○	-	○	○	○	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-
8 オンリーワンフロアブル		普	テブコナゾール	3	-	○	○	○	-	○	-	-	○	○	○	○	-	-	-	-	-	-	-
9 キノドーフロアブル		普	有機銅	M1	○	○	-	○	○	-	○	○	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
10 ジマンダイセン水和剤		普	マンゼブ	M3	○	○	○	○	○	-	○	○	○	○	○	-	-	-	-	-	-	-	-
11 スコア顆粒水和剤		普	ジフェノコナゾール	3	-	○	○	○	-	○	-	-	○	○	○	-	-	-	-	-	-	-	-
12 ストライド顆粒水和剤		普	フルオルイミド	M11	-	○	○	○	○	-	○	○	○	○	○	-	-	-	-	-	-	-	-
13 ストロビードライフロアブル		普	クレソキシムメチル	11	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	-	-	-	-	-	-	-	-
14 セルカディスDフロアブル		劇	ジチアノ、 フルキサピロキサド	M9,7	○	○	○	○	○	○	-	-	○	○	○	-	-	-	-	-	-	-	-
15 ダイパワー水和剤		普	1. イミノクタジン 2. キャプタン	M7、M4	○	○	-	○	○	-	○	○	○	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-
16 チオノックフロアブル		普	チウラム	M3	○	○	-	○	○	-	○	○	○	○	○	-	-	-	-	-	-	-	-
17 テーク水和剤		普	シメコナゾール、マ ンゼブ	I:UN、 F:3,M3	-	○	○	○	-	○	○	○	○	○	○	-	-	-	-	-	-	-	-
18 デランフロアブル		劇	ジチアノ	M9	○	○	○	○	○	-	○	○	○	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-
19 ドキリンフロアブル		普	有機銅	M1	○	○	-	○	○	-	○	○	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
20 トップジンMオイルペースト		普	チオファネートメチル	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	○	-	-	-	-	-	-
21 トップジンMペースト		普	チオファネートメチル	1	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	○	-	-	-	-	-	-
22 トップジンM水和剤		普	チオファネートメチル	1	○	-	-	○	-	○	○	○	○	○	-	-	○	○	-	-	-	-	-
23 トレノックスフロアブル		普	チウラム	M3	○	○	-	○	○	-	○	○	○	○	○	-	-	-	-	-	-	-	-
24 ナリアWDG		普	1. ビラクロストロピン 2. ポスカリド	11、7	○	○	-	○	○	○	○	○	○	○	-	-	○	-	-	-	-	-	-
25 パスポート顆粒水和剤		普	TPN	M5	○	○	○	○	○	-	○	○	○	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-
26 パッチレート		普	有機銅	M1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	○	-	-	-	○	-	-
27 パレード15フロアブル		普	ピラジフルミド	7	○	○	○	○	-	○	○	○	○	○	○	-	-	-	-	-	-	-	-
28 ファンタジスタ顆粒水和剤		普	ピリベンカルブ	11	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-
29 フジワン粒剤		普	イソプロチオラン	6	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	○	-	-	-	-
30 フランカトスプレー		普	ポリオキシシ	19	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	○	-	-	-	-	-	-
31 フリントフロアブル25		普	トリフロキシストロ ピン	11	○	○	-	○	○	-	○	○	○	○	-	-	○	-	-	-	-	-	-
32 フルーツセイバー		普	ペンチオピラド	7	-	○	○	○	-	○	○	○	○	○	○	-	-	-	-	-	-	-	-
33 ブローダ水和剤		普	1. マンゼブ 2. ミクロブタニル	M3、3	-	○	○	-	-	○	-	-	○	○	○	-	-	-	-	-	-	-	-
34 フロンサイドSC		普	フルアジナム	29	○	○	○	○	-	-	○	○	○	-	-	-	-	○	-	-	○	-	-
35 ベフラン液剤25		劇	イミノクタジン	M7	○	○	○	○	-	○	○	○	○	-	-	-	○	-	-	-	-	○	-

果樹類－仁果類－りんご－殺菌剤

※農薬の使用に際しては、必ず農薬のラベルに記載されている登録内容を確認してください。
更新年月日:2023/11/10

農薬の名称	群馬県指定	製剤毒性	有効成分の種類	作用機構分類	病害虫雑草名-使用目的																		
					輪紋病	斑点落葉病	モニリア病	褐斑病	炭疽病	うどんこ病	すす点病	すす斑病	黒星病	黒点病	赤星病	灰色かび病	腐らん病	モニリア病(実腐れ)	白紋羽病	根頭がんしゅ病	赤衣病	紫紋羽病	摘花
36 ベルクートフロアブル		普	イミノクタジン	M7	○	○	-	○	-	-	○	○	○	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-
37 ベンコゼブ水和剤		普	マンゼブ	M3	○	○	-	○	○	-	○	○	○	○	○	-	-	-	-	-	-	-	-
38 ベンレート水和剤		普	ベノミル	1	○	-	○	○	-	○	○	○	○	○	-	-	○	-	-	-	-	-	-
39 ポリオキシンAL水和剤		普	ポリオキシン	19	-	○	-	○	-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	○	-	-
40 ユニックス顆粒水和剤47		普	シプロジニル	9	-	○	○	○	-	○	-	-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
41 石灰硫黄合剤		普	石灰硫黄合剤	EUN F:M2	-	-	○	-	-	○	-	-	○	-	-	-	○	-	-	-	-	-	○

果樹類－仁果類－りんご(苗木)－殺菌剤

※農薬の使用に際しては、必ず農薬のラベルに記載されている登録内容を確認してください。
更新年月日:2023/11/10

農薬の名称	群馬県指定	製剤毒性	有効成分の種類	作用機構分類	病害虫雑草名	
					紫紋羽病	白紋羽病
1 トップジンM水和剤		普	チオファネートメチル	1	-	○
2 フロンサイドSC		普	フルアジナム	29	○	○
3 ベンレート水和剤		普	チオファネートメチル	1	-	○

6-(3) りんご（果樹類、仁果類、落葉果樹に登録のある農薬も使用可能）

病害虫名	防除方法	参考事項
斑点落葉病	生育期 1. 散布開始時期を開花前とするとともに、開花直前から落花直後の散布間隔が15日以上開かないようにする。 2. 本病は高温多湿条件で多発する。 落葉後 被害落葉は土中深くに埋める。	<ul style="list-style-type: none"> 前年の被害葉上と新梢に形成された病斑部で越冬し伝染源となる。4～5月頃に胞子が形成され、飛散して葉上に伝染し発病する。 キノンドーフロアブル、ドキリンフロアブル、オキシラン水和剤はサビ果発生防止のため、落花30日後以降に使用する。 ベフラン液剤25はサビ果発生防止のため落花40日後以降に使用する。また、蚕毒期間が長いので注意する。 ジカルボキシイミド系、QoI剤の薬剤を連用すると、耐性菌の出現する恐れがあるので注意する。 ストライド顆粒水和剤は、落花直後から落花30日後まで、また高温時に葉害を生じるおそれがあるため、9月以降の散布とする。
黒星病	生育期 1. 開花直前から落花15日後頃が重点防除時期となる。 2. 発芽10日後～5月下旬まで、散布間隔をあげすぎないようにする。 3. 被害枝、被害葉は見つけ次第つまみ取って土中深くに埋める。 落葉後 前年の被害葉上で越冬し、春先の伝染源となるので、発病園では落葉を処分する。	<ul style="list-style-type: none"> 菌の発育は20℃位が良好で、比較的低温を好む。 主に葉、果実に発生し、葉での発病は落花期頃から10月始め頃までみられる。 DMI剤、ベンゾイミダゾール系の薬剤を連用すると、耐性菌の出現する恐れがあるので注意する。
黒点病	生育期 落花10日～30日後が重点防除時期である。	<ul style="list-style-type: none"> つがる、あかぎ、紅玉、新世界、ぐんま名目で発病しやすいので注意する。
赤星病	生育期 開花直前～落花20日後が重点防除時期である。	<ul style="list-style-type: none"> 園地の近隣に中間宿主となるビャクシン類を植えないようにする。
褐斑病	生育期（6～8月） 褐斑病は、6月下旬頃から発病し、8～9月頃に多発する。7月上旬～下旬が重点防除時期である。 落葉後 被害落葉が一次伝染源となるので、発病園では落葉を処分する。	<ul style="list-style-type: none"> ベンゾイミダゾール系、QoI剤の薬剤を連用すると、耐性菌の出現する恐れがあるので注意する。 パスポート顆粒水和剤は、サビ果発生防止のため、落花30日後以降に使用する。
炭疽病	生育期（6～8月） 1. 梅雨期（6～7月）が重要防除時期となる。 2. 園内の風通しをよくし、二次伝染源となる被害果は見つけしだい摘み取って土中深くに埋める。 3. 多発園では袋掛けを行い、被害果を処分する。 落葉後 被害落葉が一次伝染源となるので、発病園では落葉を処分する。	<ul style="list-style-type: none"> 寄生植物に形成された分生胞子が雨水の飛沫によって伝染し、高温多湿条件で多発する。 果実上の胞子は、数時間で発芽し、24時間程度濡れた状態が続くと侵入、感染する。 付近にニセアカシア、イタチハギがあると発病が多く、陽光、新世界、紅鶴、紅玉、王林等で感染しやすい。 QoI剤の薬剤を連用すると、耐性菌の出現する恐れがあるので注意する。

各論作成日:2023年11月10日 必ずラベルを確認してから農薬を使用してください。

病害虫名	防除方法	参考事項
輪紋病 (いぼ皮病)	休眠期 イボを削り取り、イボの多い枝は切り取り処分する。 生育期(6~8月) 1. 梅雨期(6~7月)が重要防除時期となる。 2. 樹勢が弱い場合や、移植した場合に発病が多くなるので、樹勢の回復に努める。 3. 被害果は見つけ次第、摘み取って土中深く埋める。	<ul style="list-style-type: none"> ・降雨の多い年に発病が多いので注意する。 ・ベフラン液剤 25、ベルコートフロアブルはサビ果発生防止のため、落花 40 日後以降に使用する。また、使用に当たっては蚕毒期間が長いので注意する。 ・QoI 剤の薬剤を連用すると、耐性菌の出現する恐れがあるので注意する。
疫病 (果実)	生育期(4~9月) 土壌管理は草生栽培または敷ワラをして土砂のはねかえりを防ぐ。なお、草生栽培は草が繁茂しないうちに草刈りを行う。	<ul style="list-style-type: none"> ・病原菌は土壤中で越冬し、4月以降雨水により伝染する。 ・降雨の多い6月中旬に多発する。
クラウンロット (わい性台木)	生育期(4~9月) 低湿地に発生が多いので、多発地では暗きょ排水等を行い水分管理に努める。	<ul style="list-style-type: none"> ・わい化栽培において樹幹地際部に発病する。
銀葉病	1. 被害枝は見つけ次第剪除する。 2. 登録のある薬剤で傷口を保護する。	<ul style="list-style-type: none"> ・台風などで幹、太枝が裂けたら早急に傷口を保護する。
腐らん病	休眠期 1. 被害部は削り取り、登録のある薬剤で傷口を保護する。 2. 凍害、日焼けを防止する。 生育期 高接更新による太枝の切り口には塗布剤を塗って保護し、太枝の日焼けを防止する。	<ul style="list-style-type: none"> ・被害部は外観上健全に見える部分まで削り取る。また、被害を受けた細枝は剪除する。 ・定期的な薬剤散布においても、枝幹部に十分薬液がかかるよう丁寧に散布する。 ・ベンゾイミダゾール系の薬剤を連用すると、耐性菌の出現する恐れがあるので注意する。
赤衣病	休眠期 1. 被害部は削り取り、登録のある薬剤で傷口を保護する。 2. 凍害、日焼けを防止する。 生育期 高接更新による太枝の切り口には塗布剤を塗って保護し、太枝の日焼けを防止する。	<ul style="list-style-type: none"> ・被害部は外観上健全に見える部分まで削り取る。また、被害を受けた細枝は剪除する。 ・定期的な薬剤散布においても、枝幹部に十分薬液がかかるよう丁寧に散布する。 ・抗生物質剤の薬剤を連用すると、耐性菌の出現する恐れがあるので注意する。
高接病	1. 無病の穂木を使用する。 2. 罹病を認めた時は中間台から自根を出させるか、抵抗性のリンゴ実生苗を植え付け寄せ接ぎを行う。 3. 高接ぎをしようとする穂木がウイルスを保有しているか不明の場合は、マルバカイドウ台以外のものに高接ぎをする。 4. 衰弱の甚だしい時は改植する。	<ul style="list-style-type: none"> ・ウイルスにより発病し、接ぎ木によって伝染する。 ・マルバカイドウは GLSV に、ミツバカイドウは SPV に感受性である。
奇形果病	伐採抜根する。	<ul style="list-style-type: none"> ・接ぎ木伝染するため、無毒樹から採穂する。

各論作成日:2023年11月10日 必ずラベルを確認してから農薬を使用してください。

病害虫名	防除方法	参考事項
シンクイムシ類	生育期（5月中旬～9月上旬） 1. 発生消長に注意し、殺卵やふ化直後の幼虫の食乳防止を重点にした防除を徹底する。 2. 被害果は見つけ次第処分する。 3. モモシンクイガは、7月中下旬と8月中下旬が重点防除時期である。多発園では6月上中旬までに袋掛けを行う。 4. ナシヒメシンクイの第一世代は新梢に心折れ被害を及ぼすため、見つけ次第処分する。 5. スモモヒメシンクイは、リンゴ園地への飛来が多くなる7月下旬～9月上旬が重点防除時期である。スモモ園地と隣接するほ場で飛来が多く、陽光が被害を受けやすいため注意する。	<ul style="list-style-type: none"> 有機リン系の薬剤は、落花直後から落花30日後までは薬害が発生しやすいので注意する。 オリオン水和剤40は、落花30日後まで落果のおそれがあるので使用しない。
ハマキムシ類	生育期（発芽～展葉期頃、6月中旬～8月上旬、9月上旬） 剪定時 越冬卵を除去する。	<ul style="list-style-type: none"> コカクモンハマキ、トビハマキ、モンハマキ、シロハマキは幼虫で越冬し、年間2～4回発生する。 カクモンハマキ、ミダレカクモンハマキは卵態で越冬し、年1回発生する。 有機リン系の薬剤は、落花直後から落花30日後までは薬害が発生しやすいので注意する。
ギンモンハモグリガ	生育期（5月下旬～10月上旬） 軟らかい葉に産卵するので夏場以降、枝の徒長を抑えるような栽培管理をする。	<ul style="list-style-type: none"> 4月上旬頃から越冬幼虫が動き始め、年間5回発生する。 有機リン系の薬剤は、落花直後から落花30日後までは薬害が発生しやすいので注意する。 オリオン水和剤40は、落花30日後まで落果のおそれがあるので使用しない。
キンモンホソガ	休眠期 被害葉中で越冬するので、落葉を集めて処分する。 生育期（3月下旬～5月上旬、5月下旬～10月上旬） 発生消長に注意し、ふ化後幼虫の食入防止に重点を置いた防除を徹底する。	<ul style="list-style-type: none"> 3月下旬頃から成虫が羽化し始め、年間5～6回発生する。 オリオン水和剤40は、落花30日後まで落果のおそれがあるので使用しない。
コウモリガ	生育期（6～9月） 根元周辺を除草し、敷きワラ等は根元まで敷かないようにして発見しやすくする。	<ul style="list-style-type: none"> 幼虫の食入は6月～7月中旬が最も多い。
モモチョッキリゾウムシ	生育期（開花直前～落花直後） 被害果は集めて水漬けするか土中深く埋める。	
リンゴハダニ	生育期（6月下旬～8月下旬） 1. ハダニ類は非常に繁殖能力が高く、短期間で多発してしまうため、ほ場をよく観察し1葉あたり2頭以上の寄生を認めた場合は速やかに防除する。 2. 徒長枝の剪除をする。	<ul style="list-style-type: none"> リンゴ樹上において卵で越冬し、4月下旬～5月上旬にふ化して加害する。 薬剤に対する抵抗性の出現を考慮して同一系統の薬剤使用は年1回とする。 ダニゲッターフロアブルは、ボルドー液との同時散布及び前後14日以内の近接散布は効果が劣る恐れがあるので使用は避ける。 ダニオーテフロアブルは、銅剤との混用および近接散布では防除効果が低下するおそれがあるため使用は避ける。また、本剤散布後に銅剤を散布する場合には10日以上の間隔を空ける。銅剤散布後は使用を避ける。 ※共通病害虫防除対策の部（12）ハダニ類の防除対策を参照

各論作成日:2023年11月10日 必ずラベルを確認してから農薬を使用してください。

病害虫名	防除方法	参考事項
ナミハダニ	生育期（7月上旬～8月下旬） 1. ハダニ類は非常に繁殖能力が高く、短期間で多発してしまうため、ほ場をよく観察し1葉あたり2頭以上の寄生を認めた場合は速やかに防除する。 2. 下草は付きにくい草種（イネ科など）を選定するか、樹冠下はマルチを行う。または、殺ダニ剤散布 1～2日前に草刈りをすると効果が高い。	<ul style="list-style-type: none"> ・オレンジ色の雌成虫がリンゴ樹上や下草で越冬し、3月頃には越冬場所から移動を始める。 ・薬剤に対する抵抗性の出現を考慮して同一系統の薬剤使用は年1回とする。 ・オマイト水和剤は、曇天多雨時には薬害のおそれがあるため、8月以降に使用する。 ・ダニゲッターフロアブルは、ボルドー液との同時散布及び前後14日以内の近接散布は効果が劣る恐れがあるので使用は避ける。 ・ダニオーテフロアブルは、銅剤との混用および近接散布では防除効果が低下するおそれがあるため使用は避ける。また、本剤散布後に銅剤を散布する場合には10日以上の間隔を空ける。銅剤散布後は使用を避ける。 ※共通病害虫防除対策の部（12）ハダニ類の防除対策を参照
カメムシ類	生育期（幼果期～9月） 1. カメムシ類は成虫で越冬し、4月以降越冬成虫が餌となる植物へ飛来する。7月頃から第1世代成虫が出現し、県内では年1回の発生である。 2. カメムシ類は園外から飛来し、発生状況は年次差が大きいので、発生予察情報に注意し園の状況をよく把握する。 3. カメムシ類は集合フェロモンにより同種を誘引する習性があるため、園への飛来を確認したら早めの防除を行う。 4. 夜行性であるため、活動の鈍い早朝での防除が効果的である。	<ul style="list-style-type: none"> ・主たる繁殖植物はスギ、ヒノキで、球果の豊凶がカメムシの発生量や果樹の被害量に大きな影響を与える。 ・有機リン系の薬剤は、落花直後から落花30日後までは薬害が発生しやすいので注意する。
野うさぎ、野そ	根雪前 金網を巻いて樹幹を保護する。	(野その部参照)

果樹類－仁果類－なし－殺菌剤

※農薬の使用に際しては、必ず農薬のラベルに記載されている登録内容を確認してください。
更新年月日:2023/11/10

	農薬の名称	群馬県指定	製剤毒性	有効成分の種類	作用機構分類	病害虫雑草名											
						黒星病	黒斑病	輪紋病	うどんこ病	炭疽病	赤星病	疫病	褐色斑点病	心腐れ症(胴枯病菌)	胴枯病	腐らん病	白紋羽病
1	アミスター10フロアブル		普	アゾキシストロピン	11	○	○	○	○	○	-	-	-	-	-	-	-
2	アリエッティC水和剤		普	1. キャブタン 2. ホセチル	M4、P7	-	○	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-
3	アントラコール顆粒水和剤		普	プロピネブ	M3	○	○	-	-	-	○	-	-	-	-	-	-
4	インダーフロアブル		普	フェンブコナゾール	3	○	-	○	○	-	○	-	-	-	-	-	-
5	オーシャイン水和剤		普	オキシボコナゾール フマル酸塩	3	○	○	-	○	-	○	-	-	-	-	-	-
6	オーソサイド水和剤80		普	キャブタン	M4	○	-	○	-	○	○	○	-	-	-	-	-
7	オキシラン水和剤		普	1. キャブタン 2. 有機銅	M4、M1	○	○	○	-	○	-	-	○	-	-	-	-
8	オキシンドー水和剤80		普	有機銅	M1	○	○	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-
9	キノンドーフロアブル		普	有機銅	M1	○	○	○	-	-	-	-	○	-	-	-	-
10	スコア顆粒水和剤		普	ジフェノコナゾール	3	○	○	○	-	-	○	-	-	-	-	-	-
11	ストロビードライフロアブル		普	クレソキシムメチル	11	○	○	○	○	○	-	-	-	-	-	-	-
12	チオノックフロアブル		普	チウラム	M3	○	○	-	-	○	○	-	○	○	-	-	-
13	デランフロアブル		劇	ジチアノン	M9	○	○	○	-	○	○	○	○	○	-	-	-
14	ドキリンフロアブル		普	有機銅	M1	○	○	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-
15	トップジンMペースト		普	チオファネートメチル	1	-	○	○	-	-	-	-	-	-	○	○	-
16	トップジンM水和剤		普	チオファネートメチル	1	○	-	○	○	-	-	-	-	○	○	○	○
17	トリフミン水和剤		普	トリフルミゾール	3	○	-	-	○	-	○	-	-	-	-	-	-
18	トレノックスフロアブル		普	チウラム	M3	○	○	-	-	○	○	-	○	○	-	-	-
19	ナリアWDG		普	1.ピラクロストロピン 2.ボスカリド	11、7	○	○	○	○	○	-	-	-	-	-	-	-
20	バッチレート		普	有機銅	M1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	○	-	-
21	バレード15フロアブル		普	ピラジフルミド	7	○	○	○	○	-	○	-	-	-	-	-	-
22	ファンタジスタ顆粒水和剤		普	ピリベンカルブ	11	○	○	○	-	○	-	-	○	○	-	-	-
23	フジワン粒剤		普	イソプロチオラン	6	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	○
24	フルーツセイバー		普	ペンチオピラド	7	○	○	-	○	-	○	-	○	-	-	-	-
25	フロンサイドSC		普	フルアジナム	29	○	○	○	-	-	-	-	-	-	-	-	○
26	ベルクートフロアブル		普	イミノクタジン	M7	○	○	○	○	-	-	-	-	-	-	-	-
27	ベルクート水和剤		普	イミノクタジン	M7	○	○	○	○	-	-	-	-	-	-	-	-
28	ベンレート水和剤		普	ベノミル	1	○	-	○	○	-	-	-	-	○	○	-	-
29	ポリオキシシAL水和剤		普	ポリオキシシ	19	-	○	-	○	-	-	-	○	-	-	-	-

果樹類－仁果類－なし－殺菌剤

※農薬の使用に際しては、必ず農薬のラベルに記載されている登録内容を確認してください。
更新年月日:2023/11/10

	農薬の名称	群馬県指定	製剤毒性	有効成分の種類	作用機構分類	病害虫雑草名											
						黒星病	黒斑病	輪紋病	うどんこ病	炭疽病	赤星病	疫病	褐色斑点病	心腐れ症(胴枯病菌)	胴枯病	腐らん病	白紋羽病
30	ポリペリン水和剤		普	1. イミノクタジン 2. ポリオキシシ	M7、19	○	○	○	○	-	-	-	-	-	-	-	-
31	ロブラール水和剤		普	イプロジオン	2	-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
32	石灰硫黄合剤		普	石灰硫黄合剤	I:UN F:M2	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

果樹類－仁果類－なし(苗木)－殺菌剤

※農薬の使用に際しては、必ず農薬のラベルに記載されている登録内容を確認してください。
更新年月日:2023/11/10

	農薬の名称	群馬県指定	製剤毒性	有効成分の種類	作用機構分類	病害虫雑草名
						白紋羽病
1	トップジンM水和剤		普	チオファネートメチル	1	○

果樹類－仁果類－なし－日本なし－殺菌剤

※農薬の使用に際しては、必ず農薬のラベルに記載されている登録内容を確認してください。
更新年月日:2023/11/10

	農薬の名称	群馬県指定	製剤毒性	有効成分の種類	作用機構分類	病害虫雑草名
						ニセナシサビダニ
1	コロナフロアブル		普	硫黄	I:UN F:M2	○

果樹類－仁果類－なし－殺虫剤

※農薬の使用に際しては、必ず農薬のラベルに記載されている登録内容を確認してください。
更新年月日：2023/11/10

	農薬の名称	群馬県指定	製剤毒性	有効成分の種類	作用機分類	病害虫雑草名																	
						アブラムシ類	カメムシ類	シンクイムシ類	ハダニ類	コナカイガラムシ類	ハマキムシ類	アブラゼミ	ナシチビガ	カイガラムシ類	カイガラムシ類幼虫	ヒメボクトウ	ケムシ類	ニセナシサビダニ	カンザワハダニ	ナミハダニ	クワコナカイガラムシ	カミキリムシ類	
30	ノーモルト乳剤	抑制	普	テフルベンズロン	15	-	-	○	-	-	-	-	-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-
31	ハーベストオイル		普	マシン油		-	-	-	○	-	-	-	-	-	○	-	-	-	-	-	-	-	-
32	ハチハチフロアブル	抑制	劇	トルフェンピラド	I:21A、F:39	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	○	-	-	-	-	○	-	
33	バロックフロアブル	抑制	普	エトキサゾール	10B	-	-	-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
34	フェニックスフロアブル		普	フルベンジアミド	28	-	-	○	-	○	-	-	-	-	○	○	-	-	-	-	-	-	-
35	マイトコーネフロアブル		普	ビフェナゼート	20D	-	-	-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
36	モスピラン顆粒水溶剤	抑制	劇	アセタミプリド	4A	○	○	○	-	-	-	-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
37	モベントフロアブル		普	スピロテトラマト	23	○	-	-	○	-	-	-	○	-	-	-	○	-	-	-	-	-	-
38	ロディー水和剤	抑制	劇	フェンプロパトリン	3A	○	○	○	○	-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
39	ロビンフッド	抑制	普	フェンプロパトリン	3A	-	-	-	-	-	-	-	-	-	○	-	-	-	-	-	-	-	○

果樹類－仁果類－なし(無袋栽培)－殺虫剤

※農薬の使用に際しては、必ず農薬のラベルに記載されている登録内容を確認してください。
更新年月日：2023/11/10

	農薬の名称	群馬県指定	製剤毒性	有効成分の種類	作用機分類	病害虫雑草名								
						アブラムシ類	クワコナカイガラムシ類	シンクイムシ類	ハマキムシ類	カイガラムシ類	カメムシ類	ナシチビガ	ナシホソガ	ナシグンバイ
1	サイアノックス水和剤		普	CYAP	1B	○	○	○	○	-	-	-	-	-
2	スミチオン水和剤40		普	MEP	1B	○	○	○	○	-	○	○	-	○

果樹類－仁果類－なし(有袋栽培)－殺虫剤

※農薬の使用に際しては、必ず農薬のラベルに記載されている登録内容を確認してください。
更新年月日:2023/11/10

	農薬の名称	群馬県指定	製剤毒性	有効成分の種類	作用機構分類	病害虫雑草名								
						アブラムシ類	クワコナカイガラムシ類	シンクイムシ類	ハマキムシ類	カイガラムシ類	カメムシ類	ナシチビガ	ナシホソガ	ナシグンバイ
1	サイアノックス水和剤		普	CYAP	1B	○	○	○	○	-	-	-	-	-
2	スミチオン水和剤40		普	MEP	1B	○	○	○	○	-	○	○	-	○

果樹類－仁果類－日本なし－殺虫剤

※農薬の使用に際しては、必ず農薬のラベルに記載されている登録内容を確認してください。
更新年月日:2023/11/10

	農薬の名称	群馬県指定	製剤毒性	有効成分の種類	作用機構分類	病害虫雑草名							
						アブラムシ類	コナカイガラムシ類若齢幼虫	ナシグンバイ	ハマキムシ類	シンクイムシ類	クワコナカイガラムシ	ナシチビガ	ナシミハバチ
1	ダイアジノン水和剤34		劇	ダイアジノン	1B	○	○	○	○	○	-	-	-
2	マイクロデナボン水和剤85		劇	NAC	1A	○	-	○	-	○	○	○	○

果樹類－仁果類－なし－殺虫殺菌剤

※農薬の使用に際しては、必ず農薬のラベルに記載されている登録内容を確認してください。
更新年月日:2023/11/10

	農薬の名称	群馬県指定	製剤毒性	有効成分の種類	作用機構分類	病害虫雑草名			
						黒星病	黒斑病	ハダニ類	クワコナカイガラムシ
1	アルタベールフロアブル		普	1. マシン油 2. 有機銅	F:NC、M1	○	○	○	○

6-(4) なし（果樹類、仁果類、落葉果樹に登録のある農薬も使用可能）

病害虫名	防除方法	参考事項
黒星病	<p>休眠期 薬剤により休眠期防除を行う。</p> <p>生育期 1. 罹病した花そう、葉、幼果を早期に除去し、処分する。 2. 開花直前に薬剤を散布し、孢子形成を抑える。 3. 交配期間中に長雨が続く時は薬剤を散布する。</p> <p>収穫直後(9月下旬~10月) 発生の多い園では、越冬伝染源を減らすため収穫直後に必ず防除を行う。</p> <p>落葉後(11月下旬~2月下旬) 被害落葉が一次伝染源となるので、発生園では落葉を集めて埋めるか又は粉碎等の処理を行う。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 石灰硫黄合剤は、強アルカリ性なので取り扱いに注意する。 芽基部のりん片でも越冬し、翌春孢子をつくり伝染する。 DMI 剤、ベンゾイミダゾール系の薬剤を連用すると、耐性菌の出現する恐れがあるので注意する。
黒斑病	<p>休眠期 薬剤により休眠期防除を行う。</p> <p>3月下旬~9月上旬 1. 罹病果を除去し、罹病落果実を処分する。 2. 二重袋を掛ける。 3. 小袋掛けは薬剤散布後直ちに行う。 4. 薬剤散布を行う。</p> <p>落葉後 落葉処理を行う。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ボケ芽や枝の病斑で越冬し、10~12℃になると翌春病斑表面に分生子をつくり、15℃以上になると侵入する。 4, 5月における分生子の飛散は平均温度 18℃以上の小雨条件で多くなる。 ストロビードライフロアブルは、開花~落花 30日(養分転換期)での散布は薬害が発生するので、6月以降に使用する。 ジカルボキシイミド系、DMI 剤、QoI 剤の薬剤を連用すると、耐性菌の出現する恐れがあるので注意する。
輪紋病	<p>休眠期 1. イボの削り取りやイボの多い枝は切り取り処分し、殺菌塗布剤により傷口をふさぐ。 2. 粗皮削りを行ってから、薬剤を散布する。</p> <p>5月中旬~8月上旬 梅雨時期より柄胞子が雨水とともに飛散し、果実には果点を通じて感染が起こるので定期的な薬剤散布を行う。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 春に感染した枝がイボをつくり柄子殻を形成し、越冬する。 ストロビードライフロアブルは、開花~落花 30日(養分転換期)での散布は薬害が発生するので、6月以降に使用する。 アミスター10フロアブルは、幸水、新高、二十世紀や樹勢の弱い樹に散布すると薬害が発生するので注意する。 ベンゾイミダゾール系、DMI 剤、QoI 剤の薬剤を連用すると、耐性菌の出現する恐れがあるので注意する。
胴枯病	<p>休眠期 罹病枝、病患部削取りを行い殺菌塗布剤により傷口をふさぐ。</p> <p>生育期 1. 園の排水を行い、樹を健全に育てる。 2. 窒素肥料の過用、着果過多を避ける。 3. 罹病枝の切り取りは、罹病部の 20~30cm 下から行う。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ベンゾイミダゾール系の薬剤を連用すると、耐性菌の出現する恐れがあるので注意する。 夏期の太枝の切除で菌が侵入しやすくなる。

各論作成日:2023年11月10日 必ずラベルを確認してから農薬を使用してください。

病害虫名	防除方法	参考事項
疫 病	4~7月 1. 土壌管理は、草生栽培または敷ワラをして土砂のはね返りを防ぐ。 2. 罹病枝は、切り取り処分する。 3. 発病初期に薬剤を散布する。	<ul style="list-style-type: none"> 病原菌は土壌中で越冬し、4月以降雨水によって伝染する。 全品種に発病するが、特に新水、幸水に発病が多い。 若木に発病が多い。樹幹、枝、葉、果実に発生する。
赤 星 病	3月中旬~5月上旬 降雨時に感染し易いので、薬剤散布は降雨直前または直後に行い、小雨の場合は雨中でも散布する。	<ul style="list-style-type: none"> 本菌は、中間宿主であるビャクシン、イブキ類の枝梢上で越冬し、4月中旬に形成された小生子が風雨により葉に達し、発芽侵入する。 4月中旬に降雨がないときは小生子の飛散はないが、その後の雨によって発病することがあるので注意する。 DMI剤の薬剤を連用すると、耐性菌が出現する恐れがあるので注意する。
うどんこ病	休眠期 1. 落葉を適切に処理する。 2. 剪定枝を園内に放置せず、園外に持出し埋める。 5月下旬、7月上旬~下旬 発病初期に薬剤を散布する。	<ul style="list-style-type: none"> 葉裏に不明瞭な円形の白色粉状病斑を形成する。 7月中下旬から秋にかけて蔓延し、とくに乾燥の年には多発し、果実肥大を妨げたり早期落葉の原因となる。 QoI剤、ベンズイミダゾール系の薬剤を連用すると、耐性菌が出現する恐れがあるので注意する。
えそ斑点病	1. ウイルスは穂木から感染するので、健全な母樹から穂木を採取する。 2. 発病樹は植え替えるか、または無病徴品種に更新する。 3. 高接ぎ更新時の被害を回避するには、無毒樹に無毒穂木を接ぎ木する。	<ul style="list-style-type: none"> 本病は古い葉に発病し、病斑は角形で大きさも斉一である。また、多発病葉は早期落葉する。 病徴の発現する品種 二十世紀、新高、八雲、おさ二十世紀、新雪、新星、南水 無病徴保毒品種 幸水、豊水、あきづき、筑水、長寿、八里
紅粒がんしゅ病	休眠期 罹病枝、病患部削取りを行い殺菌塗布剤により傷口をふさぐ。 8月下旬~9月 被害枝は、剪除し処分する。	<ul style="list-style-type: none"> 本菌は多犯性で、ナラ、ケヤキなどの多くの広葉樹に寄生する。 剪定の切口や、凍寒害による損傷部などから感染する。
萎縮病	1. 症状が進むと園内に子実体（糸状菌）が発生し、これが重大な伝染源となるので早めに除去する。 2. 症状が部分的発生である場合は、腐朽部を削り取り傷口の癒合促進のため、殺菌塗布剤により傷口をふさぐ。傷口がふさがるまで毎年塗布する。	<ul style="list-style-type: none"> 症状は正常な樹より萌芽が遅れ、葉が萎縮、波打ちあるいは小型化し、葉緑が黒変する。 果実は、小玉果または奇形果となる。
炭疽病	休眠期 1. 落葉を適切に処理する。 2. 剪定枝を園内に放置せず、園外に持出し埋める。 5月~7月中旬 薬剤散布をする。	<ul style="list-style-type: none"> 被害落葉、花芽で越冬し伝染源となる。 6~7月に曇雨天が続くと多発する。 7月中旬頃から発生が確認され、早期落葉の原因となる。 QoI剤系の薬剤を連用すると、耐性菌が出現する恐れがあるので注意する。 病徴の発現する品種 なつしづく、豊水、新高、二十世紀
紋羽病		※共通病害虫防除対策の部（ ）紋羽病の防除対策を参照

病害虫名	防除方法	参考事項
シンクイムシ類 (ナシヒメシンクイ)	休眠期 1. 粗皮削りを行う。 2. バンド誘殺を行う。 5月上旬～9月上旬 1. 被害果の摘み取り処分を行う。 2. 交信攪乱剤を設置する。 3. 薬剤を散布する。	<ul style="list-style-type: none"> ・第1世代幼虫は核果類の新梢に食入し、その後にナシの果実に被害を及ぼす。 ・7月下旬～8月下旬に果実の被害が多くなる。 ・スミチオン水和剤40は、6月以降に使用する。
クワコナカイガラムシ	休眠期(3月上旬) 越冬虫の潜伏場所(粗皮)を取り除いたあとに薬剤により休眠期防除する。 5月上旬～7月下旬 5月上旬～7月下旬までふ化するので、この時期に重点的に防除する。	<ul style="list-style-type: none"> ・クワコナカイガラムシは、卵態で越冬し年2～3回発生する。(5月中旬、7月上旬、10月中旬) ・スミチオン水和剤40は、6月以降に使用する。 ・暗いところを好むため有袋栽培に被害が多い。
ナシマルカイガラムシ	休眠期(3月上旬) 越冬虫の潜伏場所(粗皮)を取り除いたあとに薬剤により休眠期防除する。 5月上旬～9月下旬 5月中旬頃から成虫になり、胎生で繁殖するので、この時期に重点的に防除する。	<ul style="list-style-type: none"> ・ナシマルカイガラムシは、1齢幼虫で越冬し年3回(5月中旬、7月中旬、9月中旬)発生する。 ・冬期のマシン油乳剤の散布は効果が高い。
ニセナシサビダニ	休眠期 越冬虫の潜伏場所(粗皮)を取り除いたあとに薬剤により休眠期防除する。 生育期 被害症状が確認された場合、ただちに薬剤防除を行う。徒長枝の先端に多く潜伏しているため、薬剤がそれらにかかるように防除する。	<ul style="list-style-type: none"> ・毛茸の多い葉や枝に寄生するため、徒長枝などの新梢に多く潜伏している。 ・若い葉から葉へ移動しながら、6月下旬～7月中旬に増殖のピークとなる。
ナシチビガ	休眠期 越冬繭は取り除く。 5～9月 発生が多ければ薬剤散布する。	<ul style="list-style-type: none"> ・樹幹または太枝に繭をつくって蛹で越冬し、年4回発生する。 ・スミチオン水和剤40は、6月以降に使用する。

病害虫名	防除方法	参考事項
ハダニ類 (ナミハダニ、カンザワハダニ、リンゴハダニ)	休眠期 越冬虫の潜伏場所(粗皮)を取り除いたあとに薬剤により休眠期防除する。 5月上旬~9月下旬 1. ハダニ類は非常に繁殖能力が高く、気温の上昇に伴い増殖が速くなるので、発生初期からの防除を徹底する。 2. ほ場をよく観察し1葉あたり2頭以上の寄生を認めた場合は、速やかに防除する。 3. 下草処理を行う場合は殺ダニ剤を散布する前とする。	<ul style="list-style-type: none"> ・6月中旬の高温時に、ナミハダニが発生することがある。 ・7月~8月に干ばつが続くとナミハダニ、カンザワハダニが特に激発する。 ・薬剤に対する抵抗性の出現を考慮して同一系統の薬剤使用は年1回とする。 ・ダニゲッターフロアブルを新梢伸長期の日本なし(二十世紀を除く)に使用する場合は、以下の事項を守ることを。 <ul style="list-style-type: none"> ①豊水、新高、長十郎には新葉に薬害を生じる恐れがあるので使用しない。 ②有機リン剤との同時散布及び10日以内の近接散布は、新葉に薬害を生じる恐れがあるので避ける。 ・ダニゲッターフロアブルは、ボルドー液との同時散布及び前後14日以内の近接散布は効果が劣る恐れがあるので使用は避ける。 ・マイトコーネフロアブルは、6月以前の散布や高温乾燥時に散布すると、葉縁の波打ちや、果そう葉の黄化や落葉が発生する恐れがある。 ・天敵製剤を利用する場合は、天敵への影響を考慮した薬剤を使用する。 ・ダニオーテフロアブルは、銅剤との混用および近接散布では防除効果が低下するおそれがあるため使用の際は以下の事項を守ることを。 <ul style="list-style-type: none"> ①銅剤との混用は避ける。 ②本剤散布後に銅剤を散布する場合には10日以上散布間隔を空ける。 ③銅剤散布後は本剤の使用は避ける。 ※共通病害虫防除対策の部(12)ハダニ類の防除対策を参照
カメムシ類	生育期 成虫の飛来加害時期は年により異なるので、発生予察情報を参考に薬剤防除を行う。	<ul style="list-style-type: none"> ・カメムシ類は成虫で越冬し、4月以降越冬成虫が餌となる植物へ飛来する。 ・第1世代成虫の発生は7月から出現し、県内では年に1世代の発生である。 ・主な繁殖植物はスギ、ヒノキで、その球果の豊凶が、カメムシ類の発生量や果樹の被害量に大きく影響を与える。 ・当年のスギ、ヒノキの球果が豊作の場合は餌が豊富なことから、園への飛来は少ない傾向にある。一方で当年から翌年にかけて越冬量が多くなり、翌年の春~7月頃にかけて園への飛来量は増加傾向となる。 ・活動の鈍い早朝での防除が効果的である。 ・スミチオン水和剤40は、6月以降に使用する。
アブラムシ類	生育期 発生の状況を見て薬剤防除を行う。	<ul style="list-style-type: none"> ・スミチオン水和剤40は、6月以降に使用する。

果樹類－核果類－もも類－ネクタリン－殺菌剤

※農薬の使用に際しては、必ず農薬のラベルに記載されている登録内容を確認してください。
更新年月日:2023/11/10

	農薬の名称	群馬県指定	製剤毒性	有効成分の種類	作用機構分類	病害虫雑草名						
						せん孔細菌病	縮葉病	灰星病	黒星病	ホモブシス腐敗病	縮葉病(休眠期)	うどんこ病
1	ICボルドー412		普	銅	M1	○	○	-	-	-	-	-
2	Zボルドー		普	銅	M1	○	-	-	-	-	-	-
3	アフェットフロアブル		普	ベンチオピラド	7	-	-	○	○	-	-	-
4	イオウフロアブル		普	硫黄	I:UN F:M2	-	-	-	○	-	-	-
5	インダーフロアブル		普	フェンブコナゾール	3	-	-	○	○	-	-	-
6	オーシャイン水和剤		普	オキシボコナゾール ルフマル酸塩	3	-	-	○	○	○	-	-
7	オンリーワンフロアブル		普	テブコナゾール	3	-	-	○	○	○	-	○
8	クプロシールド		普	銅	M1	○	-	-	-	-	-	-
9	スコア顆粒水和剤		普	ジフェノコナゾール	3	-	-	○	○	-	-	-
10	スターナ水和剤		普	オキシリニック酸	31	○	-	-	-	-	-	-
11	ストロビードライフロアブル		普	クレソキシムメチル	11	-	-	○	○	-	○	○
12	ダコニール1000		普	TPN	M5	-	-	○	○	-	-	-
13	チオノックフロアブル		普	チウラム	M3	○	○	○	○	-	-	-
14	デランフロアブル		劇	ジチアノン	M9	○	○	○	○	○	-	-
15	トレノックスフロアブル		普	チウラム	M3	○	○	○	○	-	-	-
16	ナリアWDG		普	1.ピラクロストロピン 2.ボスカリド	11、7	-	-	○	○	○	-	○
17	ファンタジスタ顆粒水和剤		普	ピリベンカルブ	11	-	-	○	○	○	-	○
18	フルーツセイバー		普	ベンチオピラド	7	-	-	○	○	-	-	○
19	ベルコートフロアブル		普	イミノクタジン	M7	-	-	○	○	○	-	-
20	マイコシールド		普	オキシテトラサイクリン	41	○	-	-	-	-	-	-
21	ロブラール水和剤		普	イプロジオン	2	-	-	○	-	○	-	-

果樹類－核果類－もも類－ネクタリン－殺虫剤

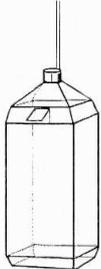
※農薬の使用に際しては、必ず農薬のラベルに記載されている登録内容を確認してください。
更新年月日:2023/11/10

農薬の名称	群馬県指定	製剤毒性	有効成分の種類	作用機分類	病害虫雑草名																
					カメムシ類	シンクイムシ類	ハダニ類	モモアカアブラムシ	アブラムシ類	モモハモグリガ	カイガラムシ類	ハマキムシ類	コスカシバ	モモサビダニ	ミカンキイロアザミウマ	カンザワハダニ	ナミハダニ	クワコナカイガラムシ若齢幼虫	アザミウマ類	ケムシ類	
1	アーデントフロアブル	抑制	普	アクリナトリン	3A	○	○	○	-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	○	-
2	アタックオイル		普	マシン油		-	-	-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
3	アディオン乳剤	抑制	普	ペルメトリン	3A	○	○	-	-	○	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
4	アドマイヤー顆粒水和剤		劇	イミダクロプリド	4A	○	-	-	-	○	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
5	アブロードエースフロアブル		普	1.フェンピロキシメート 2.プロフェジシ	21A、16	-	-	-	-	-	-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-
6	アルバリン顆粒水溶剤	抑制	普	ジノテフラン	4A	○	○	-	-	○	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
7	ウララDF		普	フロニカミド	29	-	-	-	-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
8	エクシレルSE	抑制	普	シアントラニリブ ロール	28	-	○	-	-	-	○	-	○	-	-	-	-	-	-	-	○
9	オリオン水和剤40		劇	アラニカルブ	1A	-	○	-	-	○	○	○	-	-	-	-	-	-	-	-	○
10	カスケード乳剤	抑制	普	フルフェノクスロン	15	-	-	○	-	-	○	-	○	-	-	-	-	-	-	-	-
11	ガットキラー乳剤		普	MEP	1B	-	-	-	-	-	-	-	○	-	-	-	-	-	-	-	-
12	カネマイトフロアブル		普	アセキノシル	20B	-	-	○	-	-	-	-	-	○	-	-	-	-	-	-	-
13	コテツフロアブル		劇	クロールフェナビル	13	-	-	-	-	-	○	-	-	-	○	○	○	○	-	-	-
14	コルト顆粒水和剤		普	ピリフルキナゾン	9B	-	-	-	-	○	-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-
15	サイアノックス水和剤		普	CYAP	1B	-	○	-	-	○	○	○	○	-	-	-	-	-	-	-	-
16	サムコルフロアブル10	抑制	普	クロラントラニリブ ロール	28	-	○	-	-	-	○	-	○	○	-	-	-	-	-	-	-
17	スカウトフロアブル	抑制	劇	トラロメトリン	3A	-	○	-	-	○	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
18	スタークル顆粒水溶剤	抑制	普	ジノテフラン	4A	○	○	-	-	○	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
19	ダイアジノン水和剤34		劇	ダイアジノン	1B	-	○	-	-	○	-	-	○	-	-	-	-	-	○	-	-
20	ダニゲッターフロアブル		普	スピロメシフェン	23	-	-	○	-	-	-	-	-	○	-	-	-	-	-	-	-
21	ダニコングフロアブル		普	ピフルブミド	25B	-	-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
22	ディアナWDG		普	スピネトラム	5	-	○	-	-	-	○	-	○	-	-	-	-	-	-	○	-
23	トラサイドA乳剤		普	1. MEP 2. マラソン	1B、1B	-	-	-	-	-	-	-	○	-	-	-	-	-	-	-	-
24	ハーベストオイル		普	マシン油		-	-	-	○	-	-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-
25	バリアード顆粒水和剤	抑制	劇	チアクロプリド	4A	-	○	-	-	○	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
26	フェニックスフロアブル	抑制	普	フルベンジアミド	28	-	○	-	-	-	○	-	○	○	-	-	-	-	-	-	○
27	マイトコーネフロアブル		普	ピフェナゼート	20D	-	-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
28	モスピラン顆粒水溶剤	抑制	劇	アセタミプリド	4A	○	○	-	-	○	○	-	-	-	-	-	-	-	-	○	-
29	モベントフロアブル		普	スピロテトラマト	23	-	-	○	-	○	-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-

* ネクタリンにおけるアドマイヤー顆粒水和剤の使用時期は、ただし書きに注意；(ただし、露地栽培については発芽期から開花期を除く)。

6-(5・6) もも・ネクタリン（果樹類、核果類、もも類、落葉果樹に登録のある農薬も使用可能）

病害虫名	防除方法	参考事項
黒星病	休眠期 罹病枝を切り取り処分する。 発芽前 発芽前までに十分防除を行う。 生育期 重点防除時期は4月下旬～6月中旬である。	<ul style="list-style-type: none"> ・枝上病斑の胞子形成は4月中旬頃から認められ、6月上旬～7月中旬の間が最も多く雨水に混じって伝染する。 ・QoI 剤の薬剤を連用すると、耐性菌が出現する恐れがあるので注意する。
炭疽病	休眠期 罹病枝を切り取り処分する。 落花後～5月下旬 重点防除時期は4月中旬～5月末頃である。	<ul style="list-style-type: none"> ・病原菌の伝染は黒星病に準ずる。 ・QoI 剤の薬剤を連用すると、耐性菌が出現する恐れがあるので注意する。
縮葉病	収穫後（秋期）～発芽前 発芽前までに十分防除を行う。 生育期 罹病葉、罹病果は白粉（子のう胞子）が生じる前に取り除き処分する。	<ul style="list-style-type: none"> ・病原菌の胞子はりん片がゆるむ頃、降雨と温度があると活動しはじめ、展葉したばかりの葉の裏面から侵入し発病する。
灰星病	生育期（開花直前～収穫期） 1. 開花期間中および成熟期（収穫前20日）間の防除を行う。 2. 樹上のミイラ果は取り除き処分する。	<ul style="list-style-type: none"> ・灰星病菌は、樹上の被害果や被害枝などが越冬源となって気温の上昇と降雨によって分生胞子を形成し、開花中の花に侵入して花腐れを生じる。 ・発病は梅雨期に収穫される早生種に多い。 ・ベンゾイミダゾール系、ジカルボキシイミド系、DMI 剤、QoI 剤の薬剤を連用すると、耐性菌が出現する恐れがあるので注意する。
せん孔細菌病	収穫後（秋期） 十分防除を行う。 休眠期 1. 罹病枝（スプリングキャンカーのある枝）を切り取り処分する。 2. 風当たりの強い園は、風傷が生じないよう防風ネットや防風垣を設ける。 生育期 1. 罹病枝（サマーキャンカーのある枝）を切り取り処分する。 2. 早めの袋掛けが有効である。	<ul style="list-style-type: none"> ・IC ボルドー412の使用は、収穫後（9月中旬）から開花期である。 ・抗生物質剤を連用すると、耐性菌が出現する恐れがあるので注意する。
いぼ皮病	休眠期 1. 無病苗を栽植する。 2. 発病した細枝は切除し処分する。 3. 被害部を削り取る。	<ul style="list-style-type: none"> ・春から秋まで降雨ごとに柄胞子が飛散して伝染する。
カイガラムシ類	生育期 幼虫ふ化期の5～7月に防除を行う。	<ul style="list-style-type: none"> ・樹勢の弱い樹は、休眠期に機械油乳剤95（落葉果樹）の代わりに石灰硫黄合剤（落葉果樹）を散布する。
アブラムシ類	生育期 萌芽期の防除を重点とする。	<ul style="list-style-type: none"> ・モモアカアブラムシは早くから発生し、若い葉を萎縮させ、モモコフキアブラムシは新しい葉の裏に寄生する。

病害虫名	防除方法	参考事項
モモハモグリガ	<p>休眠期 落葉処理など園内を清掃して越冬場所をなくす。</p> <p>落花直後～8月 初期防除の効果が高いので、越冬世代の発生消長を把握して防除する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ジアミド系の薬剤を連用すると、抵抗性が出現する恐れがあるので注意する。
シンクイムシ類	<p>5月下旬～6月、7月下旬～8月中旬</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 心折れ被害枝を除去する。 2. 被害果を処分する。 3. 有袋栽培を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・老熟幼虫で粗皮の割れ目や、取り残しの袋の中などで繭をつくり越冬する。
ハダニ類	<p>生育期</p> <p>ハダニ類は非常に繁殖能力が高く、短期間で多発してしまうため、ほ場をよく観察し1葉あたり2頭以上の寄生を認めた場合は速やかに防除する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・薬剤に対する抵抗性の出現を考慮して同一系統の薬剤使用は年1回とする。 ・7～8月に干ばつが続くと、ナミハダニ、カンザワハダニ、モモサビダニが特に激発する。 ・ダニゲッターフロアブルは、ボルドー液との同時散布及び前後14日以内の近接散布は効果が劣る恐れがあるので使用は避ける。 ※共通病害虫防除対策の部(12)ハダニ類の防除対策を参照
コスカシバ	<p>収穫後～発芽前(幼虫食入期) 食入幼虫の捕殺に努める。</p> <p>生育期～収穫後 5～9月の他害虫防除時に樹幹部にも丁寧に散布するようにする。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・幼虫捕殺後、切り口及び傷口の癒合促進剤を塗布する。 ・成虫の発生の多い時期は8～9月である。 ・樹勢が弱ってくると被害を受けやすくなる。 ・薬剤散布は秋季防除の効果が高い。
カメムシ類	<p>生育期</p> <p>成虫の飛来加害時期は年により異なるので、発生予察情報を参考に薬剤防除を行う。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・カメムシ類は成虫で越冬し、4月以降越冬成虫が餌となる植物へ飛来する。 ・第1世代成虫の発生は7月から出現し、県内では年に1世代の発生である。 ・主な繁殖植物はスギ、ヒノキで、その球果の豊凶が、カメムシ類の発生量や果樹の被害量に大きく影響を与える。 ・当年のスギ、ヒノキの球果が豊作の場合は餌が豊富なことから、園への飛来は少ない傾向にある。一方で当年から翌年にかけて越冬量が多くなり、翌年の春～7月頃にかけて園への飛来量は増加傾向となる。 ・活動の鈍い早朝での防除が効果的である。
ヤガ類 ハチ類	<ol style="list-style-type: none"> 1. ヤガは夜間、園をまわって成虫を捕殺する。 2. 飛来の多いモモ園では防蛾網を張る。 3. ヤガ、ハチの捕獲法 あらかじめ1リットル入り空き牛乳パックまたはペットボトルの上部に、1片が5cm四方の穴を二方にあける。これに混和液(清酒1.8リットル、酢600ミリリットル、砂糖150g)または果実のさく汁40～50ミリリットルを注入し、1a当たり1個の割合で枝につるし、毎朝巡回して捕獲処分する。なお、この液は7日毎に新しいものと交換する。 	<p>「ヤガ・ハチ」捕獲用パック</p> 

各論作成日:2023年11月10日 必ずラベルを確認してから農薬を使用してください。

病害虫名	防除方法	参考事項
クビアカツヤ カミキリ	4月～10月 農薬散布は樹幹部にも丁寧に散布する。 5月中旬～10月下旬 食入孔からフラスが出ている場合、針金等で刺殺するか、登録農薬を食入孔に噴射する。 6月上旬～8月上旬 成虫を発見したら捕殺する。	・拡散防止対策として、羽化期（6月～8月）にフラスの見られた樹の幹にネット（目開き4mm以下）を巻き付ける。 ※共通病害虫防除対策の部(27)クビアカツヤカミキリの防除対策を参照

果樹類－ベリー類等の小粒果実類－ぶどう－殺菌剤

※農薬の使用に際しては、必ず農薬のラベルに記載されている登録内容を確認してください。
更新年月日:2023/11/10

	農薬の名称	群馬県指定	製剤毒性	有効成分の種類	作用機構分類	病害虫雑草名											
						べと病	晩腐病	さび病	褐斑病	うどんこ病	灰色かび病	黒とう病	枝膨病	芽枯病	つる割病	白紋羽病	
1	ICボルドー48Q		普	銅	M1	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
2	ICボルドー66D		普	銅	M1	○	○	○	-	-	-	○	-	-	-	-	-
3	Zボルドー		普	銅	M1	○	-	○	○	-	-	-	-	-	-	-	-
4	アフエットフロアブル		普	ペンチオピラド	7	-	○	○	○	○	○	○	-	-	-	-	-
5	アミスター10フロアブル		普	アゾキシストロピン	11	○	○	○	○	-	○	○	○	-	-	-	-
6	アリエッティC水和剤		普	1. キャプタン 2. ホセチル	M4、P7	○	○	-	-	-	○	○	-	-	-	-	-
7	インダーフロアブル		普	フェンブコナゾール	3	-	-	-	○	○	○	○	-	-	-	-	-
8	オーシャイン水和剤		普	オキシポコナゾール フルマル酸塩	3	-	-	-	-	○	○	○	-	○	-	-	-
9	オーソサイド水和剤80		普	キャプタン	M4	○	○	-	○	-	○	○	○	-	-	-	-
10	オンリーワンフロアブル		普	テブコナゾール	3	-	○	○	○	○	○	○	-	-	-	-	-
11	ゲッター水和剤		普	1.ジエトフェンカルブ 2.チオファネートメチル	10、1	-	-	-	-	-	○	-	-	-	-	-	-
12	ジマンダイセンフロアブル		普	マンゼブ	M3	○	○	-	-	-	-	○	-	-	-	-	-
13	ジマンダイセン水和剤		普	マンゼブ	M3	○	○	○	○	-	-	○	-	-	-	-	-
14	ジャストフィットフロアブル		普	1.フルオピコリド 2.ペンチ アバリカルバイソプロピル	9、12	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
15	スイッチ顆粒水和剤		普	1.シプロジニル 2.フルジオキシニル	9、12	-	○	-	-	-	○	-	-	-	-	-	-
16	ストロビードライフロアブル		普	クレソキシムメチル	11	○	○	○	○	○	○	○	○	-	-	-	-
17	ゾーベック エニベル 顆粒 水和剤		普	1.オキサチアピロリン 2.マンゼブ	I:UN F:49,M3	○	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
18	デランフロアブル		劇	ジチアノン	M9	○	○	-	-	-	-	○	○	-	○	-	-
19	トップジンM水和剤		普	チオファネートメチル	1	-	○	-	○	○	○	○	-	○	-	-	-
20	トリフミン水和剤		普	トリフルミゾール	3	-	-	-	○	○	-	○	-	-	-	-	-
21	バスポート顆粒水和剤		普	TPN	M5	-	○	-	-	-	-	○	-	-	-	-	-
22	パスワード顆粒水和剤		普	フェンヘキサミド	17	-	-	-	-	-	○	-	-	-	-	-	-
23	ピクシオDF		普	フェンピラザミン	17	-	-	-	-	-	○	-	-	-	-	-	-
24	ファンタジスタ顆粒水和剤		普	ピリベンカルブ	11	-	○	○	-	-	○	○	-	-	-	-	-
25	フジワン粒剤		普	イソプロチオラン	6	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	○
26	フリントフロアブル25		普	トリフロキシストロ ピン	11	-	○	-	-	-	-	○	-	-	-	-	-
27	フルーツセイバー		普	ペンチオピラド	7	-	○	○	○	○	○	○	-	-	-	-	-
28	フルピカフロアブル		普	メバニピリム	9	-	-	-	-	○	○	-	-	-	-	-	-
29	フロンサイドSC		普	フルアジナム	29	○	○	-	-	-	○	○	○	-	-	-	○
30	ベトファイター顆粒水和剤		普	1.シモキサニル 2.ペンチ アバリカルバイソプロピル	27、40	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
31	ベフラン液剤25		劇	イミノクタジン	M7	-	○	-	○	-	-	○	○	-	○	-	-

* アグレプト液剤は【植物成長調整剤】2 果樹類 に掲載

果樹類－ベリー類等の小粒果実類－ぶどう－殺菌剤

※農薬の使用に際しては、必ず農薬のラベルに記載されている登録内容を確認してください。
更新年月日:2023/11/10

	農薬の名称	群馬県指定	製剤毒性	有効成分の種類	作用機構分類	病害虫雑草名										
						べと病	晩腐病	さび病	褐斑病	うどんこ病	灰色かび病	黒とう病	枝膨病	芽枯病	つる割病	白紋羽病
32	ベンコゼブ水和剤		普	マンゼブ	M3	○	○	○	○	-	-	○	-	-	-	-
33	ベンコゼブフロアブル		普	マンゼブ	M3	○	○	-	○	-	-	○	-	-	-	-
34	ベンレートT水和剤20		普	1. チウラム 2. ベノミル	M3、1	-	○	-	-	-	-	○	-	-	○	-
35	ベンレート水和剤		普	ベノミル	1	-	○	-	○	○	○	○	○	○	○	-
36	ホライズンドライブフロアブル		普	1. シモキサニル 2. ファモキサドン	27、11	○	○	-	○	-	-	○	-	-	-	-
37	ムッシュポルドーDF		普	銅	M1	○	-	○	-	-	-	-	-	-	-	-
38	ヨネボン水和剤		普	ノニルフェノールスルホン酸銅	M1	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
39	ライメイフロアブル		普	アミスルブロム	21	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
40	ランマンフロアブル		普	シアゾファミド	21	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
41	リドミルゴールドMZ		普	1. マンゼブ 2. メタラキシル及びメタラキシルM	M3、4	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
42	レーバスフロアブル		普	マンジプロバミド	40	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
43	硫酸銅		劇	硫酸銅	M1	○	-	-	-	-	-	○	-	-	-	-

果樹類－ベリー類等の小粒果実類－小粒種ぶどう－殺虫剤

※農薬の使用に際しては、必ず農薬のラベルに記載されている登録内容を確認してください。
更新年月日:2023/11/10

	農薬の名称	群馬県指定	製剤毒性	有効成分の種類	作用機構分類	病害虫雑草名			
						コガネムシ類成虫	フトウスカシバ	フトウトラカミキリ	クワコナカイガラムシ
1	スミチオン水和剤40		普	MEP	1B	○	○	○	○

果樹類－ベリー類等の小粒果実類－大粒種ぶどう－殺虫剤

※農薬の使用に際しては、必ず農薬のラベルに記載されている登録内容を確認してください。
更新年月日:2023/11/10

	農薬の名称	群馬県指定	製剤毒性	有効成分の種類	作用機構分類	病害虫雑草名						
						チャノキイロアザミウマ	コガネムシ類	フタテンヒメヨコバイ	コガネムシ類成虫	フトウスカシバ	フトウトラカミキリ	クワコナカイガラムシ
1	アディオフロアブル	抑制	普	ペルメトリン	3A	○	○	○	-	-	-	-
2	スミチオン水和剤40		普	MEP	1B	-	-	○	○	○	○	○

6-(7) ぶどう（果樹類、落葉果樹に登録のある農薬も使用可能）

病害虫名	防除方法	参考事項
晩腐病	休眠期 剪定時または3月中旬までに巻ヒゲを除去し、生育初期の感染防止をする。 5~8月 着色1ヶ月前頃に十分防除を行う。	<ul style="list-style-type: none"> ・発芽前防除が重要なので丁寧に散布する。 ・袋かけやカサかけを行う。 ・6月中旬から7月上旬の薬剤散布が重要である。 ・結果過多、窒素過多、密植園は多発しやすい。 ・ベンゾイミダゾール系の薬剤を連用すると、耐性菌の出現する恐れがあるので注意する。
黒とう病	休眠期 剪定時または3月中旬までに病枝、巻ヒゲを除去し、生育初期の感染防止をする。 生育期 発芽前防除が特に重要なので丁寧に防除する。	<ul style="list-style-type: none"> ・5月頃から発病し、5月~7月の低温多雨の天候や窒素過多による新梢の充実不良で発生しやすい。 ・シャインマスカットは発病しやすい。 ・ベンゾイミダゾール系の薬剤を連用すると、耐性菌の出現する恐れがあるので注意する。
うどんこ病	休眠期 剪定時に病斑のある枝は除去し処分する。 生育期 幼果期に十分防除を行う。	<ul style="list-style-type: none"> ・6月中旬から7月上旬の夜間が高温多湿が続くと多発する。 ・欧州系品種は発病しやすい。
褐斑病	休眠期 粗皮削りと落葉処理を行う。 生育期 梅雨期、収穫後に十分防除を行う。	<ul style="list-style-type: none"> ・本菌の多くは結果母枝や古い粗皮に付着した分生胞子で越冬し、5月頃から雨によって葉へ飛散し発病する。 ・梅雨の長引く時に発生が多くなる。 ・ベンゾイミダゾール系の薬剤を連用すると、耐性菌の出現する恐れがあるので注意する。
さび病	生育期 発病初期に十分防除を行う。	<ul style="list-style-type: none"> ・初発は6月中旬~7月上旬であるが、梅雨明け後の乾燥期に発病が多くなる。 ・欧州系品種は強いが、米国系品種、特にデラウェア、巨峰は発病しやすい。
つる割病	生育期 5~8月の発生期に防除を行う。	<ul style="list-style-type: none"> ・孢子飛散の最も多いのは5月中旬~梅雨期である。 ・窒素肥料が遅効きし、枝が軟弱、徒長的な場合に発病しやすい。 ・ベンゾイミダゾール系の薬剤を連用すると、耐性菌の出現する恐れがあるので注意する。
灰色かび病	生育期 1. 開花直前、落花直後に十分防除を行う。 2. 落花後、果実に付着した花冠は除去する。	<ul style="list-style-type: none"> ・開花前の花穂や成熟期の果実に発病する。また、花冠の離脱が悪いと多発する。 ・DMI剤の薬剤を連用すると、耐性菌の出現する恐れがあるので注意する。 ・幼果期~果実肥大期以降の農薬散布は汚れや果粉溶脱の恐れがあるので、使用上の注意をよく確認する。

各論作成日:2023年11月10日 必ずラベルを確認してから農薬を使用してください。

病害虫名	防除方法	参考事項
べと病	休眠期 落葉処理を行う。 生育期（5月～収穫期） 予防散布を徹底する。	<ul style="list-style-type: none"> ・降雨の多い低温の年は多発しやすい。 ・本病は欧州系品種に多い。 ・発病してからでは防除が難しいので予防散布に重点をおく。 ・リドミルゴールド MZ、アリエッティ C 水和剤は幼果期から袋掛けまでの使用を避ける。 ・リドミルゴールド MZ は施設栽培は開花前までに使用とする。 ・QoI 剤の薬剤を連用すると、耐性菌の出現する恐れがあるので注意する。
チャノキイロアザミウマ	生育期 開花前～幼果期と袋かけ前に十分防除を行う。その後の増殖期や発生最盛期にも適宜防除を行う。	<ul style="list-style-type: none"> ・アルバリン顆粒水溶剤、スタークル顆粒水溶剤は、幼果期から果粒肥大期の散布は果粉の溶脱のおそれがあるので使用は避ける。
ブドウトラカミキリ	発芽前（休眠期） 1. 剪定枝を園外に持ち出し処理する。 2. 発芽前の薬剤散布が高い効果を示す。 生育期～収穫後 成虫脱出期または収穫後の若齢幼虫期に防除を行う。	<ul style="list-style-type: none"> ・年1回の発生で8月中旬～9月上旬に成虫発生が多い。 ・アルバリン顆粒水溶剤、スタークル顆粒水溶剤は、幼果期から果粒肥大期の散布は果粉の溶脱のおそれがあるので使用は避ける。
コウモリガ	6～9月 1. 根元周辺を除草し、敷ワラ等は根元まで敷かないようにする。 2. 食入期前に薬剤の樹幹塗布を行う。	<ul style="list-style-type: none"> ・幼虫の食入は6月～7月中旬が最も多い。
コガネムシ類	6～8月 成虫発生時期（新梢伸長期）の忌避と殺虫をねらい防除を行う。	<ul style="list-style-type: none"> ・成虫発生盛期は7月中旬～8月上旬である。
ハダニ類 ・ フシダニ類 (ブドウハモグリダニ・ブドウサビダニ)	発芽前（休眠期） 越冬ダニを狙って防除を行う。 5～7月 1. 生育期に被害が発生した場合は、初期に防除を行う。 2. ブドウサビダニは葉裏より葉表に寄生するので、発生期防除は葉表に十分散布する。防除適期は、発芽前及び発生初期の7月上旬から中旬である。	<ul style="list-style-type: none"> ・えそ果病は、ウイルスを保有したブドウハモグリダニによって健全樹へ伝搬されることが確認されている。 ・薬剤に対する抵抗性の出現を考慮して同一系統の薬剤使用は年1回とする。 ※共通病害虫防除対策の部（12）ハダニ類の防除対策を参照
コナカイガラムシ類	休眠期 粗皮削りを行う。 生育期 幼虫ふ化期の5～7月に防除を行う。	